

弥生を迎えて

分所長 高木敏彦

寒かった日々が終えて、気候のよい春を迎えることができました。木々にも新しい芽吹きが萌えだして緑豊かな風情になってきました。

新年度を迎えて進学、就職など新たな門出を迎える候ですが、気候の変化で体調を崩すことなく元氣にお過ごしください。

後継者育成に必要なことの一つに、毎月の月次祭の実施をして、家族全員の健康を祈り感謝を神様に捧げることがあります。また、祭典後の直会で愉快に団欒をして親交を深めることも重要です。

道の光 (90ページ)

出口 王仁三郎

祓(はらい)は戒(いま)しめ、慎(つつし)み、うやまいの心である。

悪しき心おこれば、これをのぞき去り、過ちてはすなわち改め、不浄けがれあらば、これを洗いすずぐの道(みち)である。

日頃かくのごとくにして心を清め身を潔(きよ)むるは、祓の道の目的である。

祓(はらい)の読みは払(はら)いである。また洗(あら)いである。科戸(しなど)の風の天(あめ)の八重雲を吹き払い、あるいは地の上の塵(ちり)を払い、水の、もの垢(あか)を洗い、湯の、人の身体のきたなき垢を洗い去るがごときをいうのである。

祓(はらい)の種類はたくさんあって、一々説

き示すいとまがないから、ここにその一二つを並べてみようと思う。

善言美詞(ぜんげんびし)の祓というのがある。この祓は天津祝詞太祝詞言(あまつのり)とのふとのり(こと)を宣(の)れと唱(の)る(うる)神嘉言(かみよこと)である。

身滌(みそぎ)の祓は、伊邪那岐(いざなぎ)の命(のみこと)、醜女(しこめ)きたなき黄泉津国(よもつくに)よりかえりきまして、「筑紫の日向の橘の小戸の阿波岐原において」心を洗い身を清めたまいしことを明らかにせる寿詞(ほぎこと)である。

祓はうるわしき言葉をもって、神に申しあぐるを主とするの道である。ゆえにまた神嘉言(かみよこと)と唱(とな)る(うる)のである。

祓は祭祀の道の始祖天(みおやあめ)の児屋根命(こやねのみこと)が、いにしへの暗黒時代に、天津御神(あまつみかみ)をほめたたえて、諸々の罪けがれ災いを祓いぬぐい去り、大神の御心を和らげ奉りたる正道(まさみち)である。

すべての祓は、大本の妙なる御業(みわざ)にして、第一に神を和め奉り、心の罪穢(つみけがれ)、身体の悪を清め、罪科(とが)、過失(あやまち)、疾病(やみ)、曲事(まがこと)、祟(まじ)りを祓う大神法(おおみのり)である。人たるもの軽々しくみのがし、うち捨ておいてはならぬ。

冠沓句の募集(三河本苑春季大祭)

冠句題

三河には・真心の・堂々と

沓句題

宝物

【締め切り】 4月20日 本苑事務局まで

主な行事予定

- 3月9日(日) 午後1時半より 碧南分所月次祭 担当第1班
- 3月16日(日) 午前10時より 三河本苑月次祭(ひな祭り茶会)女性祭員奉仕 全体会議・愛善歌奉納練習 瑞声(2部合唱)
- 3月26日~28日(水~金) 高校生会議 亀岡天恩郷にて
- 3月29・30日(土日) 祭式3・4級認定講習会
- 4月13日(日) 午後1時半より 碧南分所月次祭 担当第2班
- 4月20日(日) 午前10時より 三河本苑月次祭・愛善歌奉納練習
- 4月27日(日) 万祥殿献勞奉仕

3月の誕生者 おめでと〜うございます!

- 奥谷 建児 8日 北條 幸代 藤浦 公明 杉浦 文江 10日 粟津 夕理 15日 蒲生 陽菜 20日 椋山 美智子 高橋 政明 21日 山田 奈夕 23日 高橋 いずみ 28日 蒲生 奈々 大塚 海音 30日